

～実践記録～

1. 学校名：長野県木曾青峰高等学校

2. 対象：高校3年生・6名  
(学年・人数)

3. 活動内容

(1) 活動名 「青峰里山プロジェクト」

(2) 活動の目標

- ・地域で遊休化している農地や山林など里山を整備し地域農林業の活性化をはかる
- ・地域の子ども達に自然豊かな里山を体験してもらえる機会をつくる

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

- |   |  |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 多様性 (多種多様な現象が起きていること) | <input checked="" type="checkbox"/> 公平性 (一人ひとりを大切に)    |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性 (関わりあっている)        | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性 (互いに連携・協力すること) |
| <input type="checkbox"/> 有限性 (限りがある)                      | <input checked="" type="checkbox"/> 責任制 (責任を持って)       |
| <input type="checkbox"/> その他 ( )                          |  |

②育成する資質・能力

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 批判的に考える力                   | <input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力    |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力    | <input type="checkbox"/> 進んで参加する態度              |
| <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力   |   |

(4) 関連するSDGs

- 11 住み続けられるまちづくりを
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 15 陸の豊かさを守ろう



(5) 活動の内容

①地域の里山調査 (写真1)

地域で遊休化している里山を踏査し、その歴史や管理の課題について、地域の農家さんや地主さんから聞き取りを行った。

②遊休農地の整備 (写真2)

調査をもとに、遊休農地の整備計画を立て、地域の方や本校卒業生の指導をいただきながら、草刈り、圃場や水路、通作道の整備に取り組んだ。

③水田ビオトープの整備 (写真3)

長年遊休化していた水田の水路や畦を再生し、沢水を活かしたビオトープに再整備した。今後水田として活用する準備を行った。

④植物調査と野草園の整備 (写真4)

長年薬草研究に取り組み、信州大学でも講師をつとめた小谷宗司先生のご指導のもと、対象地の植物調査と植物名やその活用方法をしめす案内プレートの作成に取り組んだ。

⑤間伐材を活用した休憩施設や橋の整備 (写真5)

間伐材に活用方法を探り、ベンチや圃場間を移動するための橋の整備を行った。

⑥里山の魅力と整備の大切さを伝える里山講座 (写真6)

地元保育園や小学校を対象に、里山の自然の魅力や、整備の大切さを体験から伝える講座を企画し、交流を深めた。



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4



写真 5



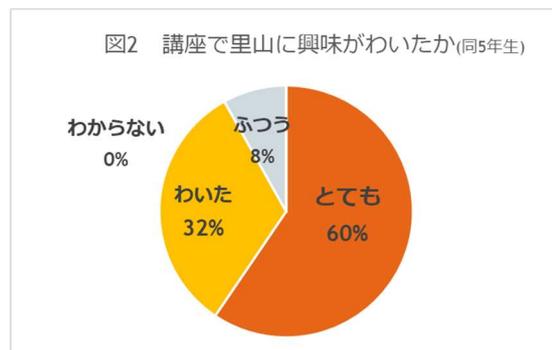
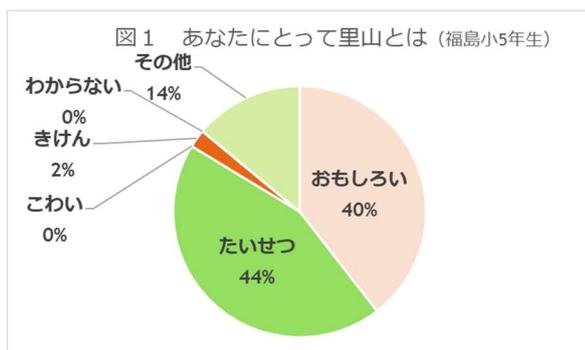
写真 6

#### 4. 活動の成果

プロジェクトでは、これまで人の手が入らず、獣害被害の原因ともなっていた荒廃山林や農地の整備を行い、高校生をはじめ地域の方々が自然について学び親しむことのできる場として再生した。整備活動では、これまで地域環境を守られてきた先輩方のご指導をいただくとともに、仲間と試行錯誤しながら、環境保全技術や自然と人の関わりについて一年間を通し学ぶことができた。

自然植生に配慮した除草管理や、水田ビオトープ整備により、40 種以上の植物や、多様な昆虫、水生生物を観察することができ、多様な生物を育む里山環境となった。

一年間の活動をまとめ、子ども達に里山の自然を体験してもらう里山講座を企画し、地域の自然や人との関りで生まれる里山環境の豊かさを、体験をもって伝えることができた。子ども達の感想やアンケート結果（図 1, 2）から、身近な生物や里山への関心を深めることができたと考える。



#### 5. 指導方法・体制の工夫

- ①地域農家さんのご助言 ※地域の歴史や獣害対策
- ②土木技術者（本校卒業生）※水路や畦の整備（生物に配慮した土水路整備について）
- ③薬草研究者小谷宗司先生 ※植生調査・野草園の整備